1/29(日)
14-16時

日本遺産 JAPAN HERITAGE　館林の里沼

参加無料

令和4年度 日本遺産「里沼」セミナー

日本遺産を活かしたまちづくり

■期 日：**令和５年１月29日**(日)　**14：00～16：00** (開場13：30)

■会 場：**館林市文化会館小ホール**　(〒374-0018　群馬県館林市城町３-１)

■参加者募集：**80名**

※申込方法
(A)　1/4(水)9:00～　ぐんま電子申請受付システム
(B)　FAX(0276-74-4113)
(C)　メール(nihonisan@city.tatebayashi.gunma.jp)

電子申請ＱＲ

■内 容：

(1)アトラクション「里沼の記憶」　解説：滝沢昌之さん(作曲家)

(2)日本遺産「里沼」の近況報告　報告：館林市教育委員会文化振興課

(3)近隣の日本遺産認定地の事例紹介　＊先進認定地の特色ある取組みをご紹介いただきます

❶栃木県宇都宮市「日本遺産を活用した地域活性化の取組み～大谷石文化の息づくまち宇都宮～」
講師：宇都宮市教育委員会 文化課 文化財活用推進担当　主幹　今平利幸さん

❷茨城県笠間市「シリアル型認定「かさましこ」の取組みについて」
講師：笠間市教育委員会 教育部 生涯学習課 文化振興室　室長　柴田裕実さん

❸埼玉県行田市「足袋蔵を活かしたまちづくり～足袋とくらしの博物館を中心に～」
講師：行田市教育委員会 文化財保護課　課長　中島洋一さん

＊当セミナーの様子は、YouTube 館林市公式動画チャンネルで LIVE 配信予定です。(アーカイブあり)

里沼ＷＥＢサイト

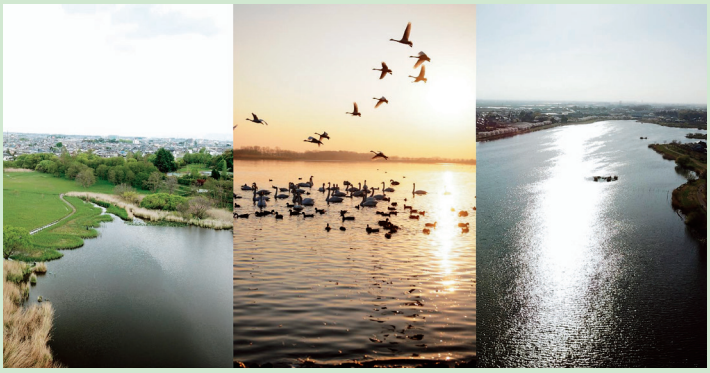
主催：館林市・館林市教育委員会・館林市「日本遺産」推進協議会

サトヌマちゅん

群馬県館林市

令和元年度認定
分類：地域型／認定ストーリー70

里沼（SATO-NUMA）
―「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化―



里沼（「祈りの沼・茂林寺沼」、「実りの沼・多々良沼」、「守りの沼・城沼」）

■ストーリー概要

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼(SATO-NUMA)」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を辿れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。

■主な構成文化財

- 茂林寺沼及び低地湿原
- 多々良沼
- 城沼
- 尾曳稲荷神社
- 堀工町のどんど焼き
- 上三林のささら
- 館林城(三の丸土橋門・城沼墾田碑)
- 躑躅ヶ岡(つつじが岡公園)
- 創業期日清製粉館林工場事務所(製粉ミュージアム本館)
- 川魚料理(鯰・鯉・鮒・鰻料理)
- 館林のうどん
- 麦落雁
- 蛇沼及び間堀遺跡出土品
- 近藤沼(ホリアゲタ)
- 長良神社と館林城下町の総構え
- 織姫神社と館林紬

栃木県宇都宮市

平成３０年度認定
分類：地域型／認定ストーリー57

地下迷宮の秘密を探る旅
～大谷石文化が息づくまち宇都宮～

大谷観音（大谷磨崖仏・特別史跡）

カネイリヤマ採石場跡地（大谷資料館）

■ストーリー概要

冷気が張りつめるこの空間は一体、どこまで続き、降りていくのだろう。壁がせり立つ巨大な空間には、柱が整然と並び、灯された明かりと柱の影が幾重にも続く。柱と柱の間を曲がると、同じ光景がまた目前に広がり、しだいに方向感覚が失われていく。江戸時代に始まった大谷石採掘は、最盛期に年間８９万トンを出荷する日本屈指の採石産業として発展し、地下に巨大な迷宮を産み出していった。大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる」文化、掘り出された石を変幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれ、この地を訪れる人々を魅了する。

■主な構成文化財

- カネイリヤマ採石場跡地(大谷資料館)
- 大谷磨崖仏
- カトリック松が峰教会
- 旧篠原家住宅
- カネホン採石場(高橋佑知商店)

茨城県笠間市
栃木県益子町

令和２年度認定
分類：シリアル型／認定ストーリー87

かさましこ
～兄弟産地が紡ぐ“焼き物語”～

窯焚き（益子町）

笠間の陶炎祭（笠間市）

■ストーリー概要

東日本屈指の窯業地「かさましこ」（茨城県笠間市と栃木県益子町）は、窯業や統治者によって古代から同じ文化圏でした。江戸時代に入り別々の道を歩みますが、１８世紀後半から再び、製陶を通じてつながり合った地域です。使い勝手のいい日用品を作り続けていたこの地は、存続の危機に陥ると時代に合わせた革新に挑み、多様な作風を許容する産地へと変化しました。自由でおおらかな環境が創造する者を惹きつけ、今では６００名を超える陶芸家が活躍しています。美意識を追求し美しい生活造形を生み出す「かさましこ」は、訪れる人の五感をも刺激し、暮らしに寄り添う独自の陶文化を醸成しているのです。

■主な構成文化財

- 地蔵院本堂
- 西明寺(三重塔、楼門、本堂内厨子)
- 根古屋窯(旧益子陶器伝習所)
- 楞厳寺(山門、木造千手観音立像)
- 久野陶園

埼玉県行田市

平成２９年度認定
分類：地域型／認定ストーリー41

和装文化の足元を支え続ける
足袋蔵のまち行田

旧忍町信用組合店舗

行田足袋

■ストーリー概要

忍城の城下町行田の裏通りを歩くと、時折ミシンの音が響き、土蔵、石蔵、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」が姿を現す。行田足袋の始まりは約３００年前。武士の妻たちの内職であった行田足袋は、やがて名産品として広く知れ渡り、最盛期には全国の約８割の足袋を生産するまでに発展した。それと共に明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていった。今も日本一の足袋産地として和装文化の足元を支え続ける行田には、多くの足袋蔵等歴史的建造物が残り、趣きある景観を形づくっている。

■主な構成文化財

- 旧忍町信用組合店舗
- 足袋蔵まちづくりミュージアム(栗代蔵)
- 牧野本店店蔵・主屋・土蔵・足袋とくらしの博物館
- 行田足袋
- 忍城跡